

国労

蘇我運輸区分会ニュース

実態が伴わない車椅子対応

移動する権利

・・・と言っけれど

先月7日の運協委員会で、駅職場の仲間より報告があった車椅子対応に関して話し合いました。

ひとつは、駅を介さずに勝手に最後部に来て車掌に乗せてもらい、指令を介して降車駅に連

絡させ、対応してもらおう

というものでした。最初話を聞いた時、勝手な人がいるもんだと思いましたが、数年前、総武本線でも委託駅社員が休憩中の窓閉め時で同ケー

スがあり、その時は所定の手順による扱いでないという理由で、車掌が断り、苦情が来るという事実象もありました。



これらの話を職場の若い人たちにした所、数人から「頼まれたら乗せちゃいますね」という回答がありました。確かに車掌の立場では、そこで「こちゃこちゃやり取りしてるより、取り合えず乗せて、あとは駅任せの方が気が楽かな?・・・」。

が、駅にしてみれば時間的、要員のに全く余裕もない場合もあり、正直な話、いい迷惑です。何より安全面においても心配であり、トラブルの元になりかねません。

運協委員会では「移動する権利」という言葉も出ました。それは憲法でも謳われているもので、本来なら例えば障害を持った人も介助なしで、自由に電車などの交通機関を利用出来ること

が理想なのですが、悲しいかな日本ではまだまだそこに近づかず、先進国内でも最低のレベルであります。そこに近づかぬためには、もっともっ



と設備投資や駅員の要員数を増やさなければならず、それがクリアされなければ、ずっとこのままだと思います。JR会社も大手の鉄道会社として現状のままという姿勢(考え方)は絶対許されません。

とは言え、この現状では現在のルールを利用者にも理解し、守ってもらうしかなく、心苦しいですが、総武本線の車掌の対応をするしかありません。ルール無視が常

会社は安心・安全を売って利益を儲けて！



態化し、利用者が勝手に動くことで、安全・安心が脅かされることも懸念されます。モラルや秩序といったものが崩れていくのは、社会的にも良いことではありません。もうひとつは、千葉みなと駅で、早朝一人勤務時に、ほぼ同じ時間で上り下りの車椅子対応があるというものでした。どちらも駅社員だけの問題でなく、同じ線区で働く私たちの職場で関わる問題であり、共有すべきだという声がありました。会社の対応も整理と確認が必要です。

☆ 会社が推奨している利用者への「声かけ運動」は、設備サボ、要員サボを棚に上げたものであり、首をかじげますが・・・。